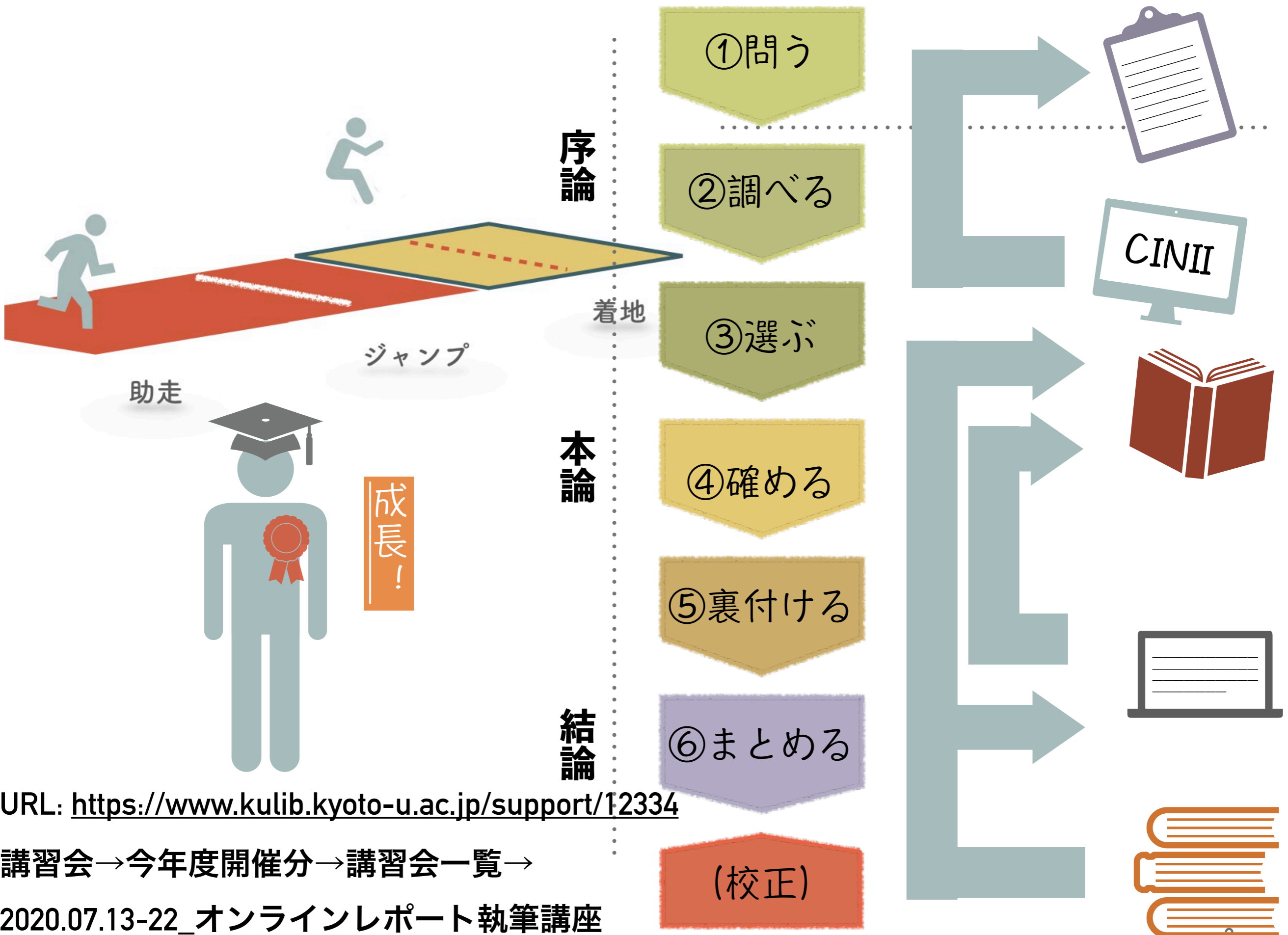


学术日语集中讲座

教育学研究科M2 包 福升

2020/11/02 @附属図書館ラ一コモ





URL: <https://www.kulib.kyoto-u.ac.jp/support/12334>

講習会 → 今年度開催分 → 講習会一覧 →

2020.07.13-22_オンラインレポート執筆講座

レポートは要判断

論文六つ揃えが原則だが、

序論

①問う

②調べる

③選ぶ

本論

④確める

⑤裏付ける

結論

⑥まとめる

⑦校正

目的 (Introduction)

自分の研究で明らかにしたい問いを示す

先行研究 (Introduction)

関連する先行研究を紹介し、本研究のオリジナリティを示す

資料と方法 (Material and Method)

問いを明らかに論証するためのデータの概要と方法を示す

結果と分析 (Result)

分析を経た調査の結果を示し、問いに答える
考察 (Discussion)

なぜそのような結果になるのか、その理由を考える

結論 (Conclusion)

①～⑤の論証のプロセスを要約し、今後の課題を示す

ブレインストーミング

自分の「調査キーワード」を設定



CINII

概要調査

基本情報の確認、
先行研究の収集と分析

連続
進行

オリジナル調査

発展的内容の資料調査、
実地調査など

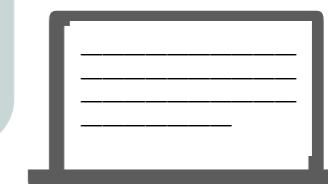


テーマの決定・絞り込み・修正

メモをためる 要点や気づいたことを書きためる、年表
や図をつくる、資料の重要箇所を切り貼りする、など

アウトライン作成

章立て・構成をつくってみる



文章化

メモやアウトラインを少しずつ文章にする



レポート

◆ 序論

- 第一節 問題提起
- 第二節 先行研究
- 第三節 資料と方法

◆ 本論

- 結果
- 分析

◆ ...

◆ ...

段落

■ 結果

- トピック・センテンス(**TS**)

段落の中心的なトピックとそのコメント

- サポート・センテンス(**SS**)

TSを支える根拠や例、引用

- コンクルーディング・センテンス(**CS**)

段落全体のまとめ、TSと強い関連

■ 分析

- TS-SS-CS...

■ ...

今日の内容

参考文献：石黒圭『論文・レポートの基本』日本実業出版社、2012/03。

◆ 論文の表現

- 正確な言葉選びおよび表記
- 論文専用の表現
- 明晰な文
- 明晰な文章展開
- 主張と引用

論文の表現の基本—考え方

- ◆ 「正確」／「厳密」である
- ◆ オリジナリティ（originality／独創性）

「これって、本当？」

嘘を減らす

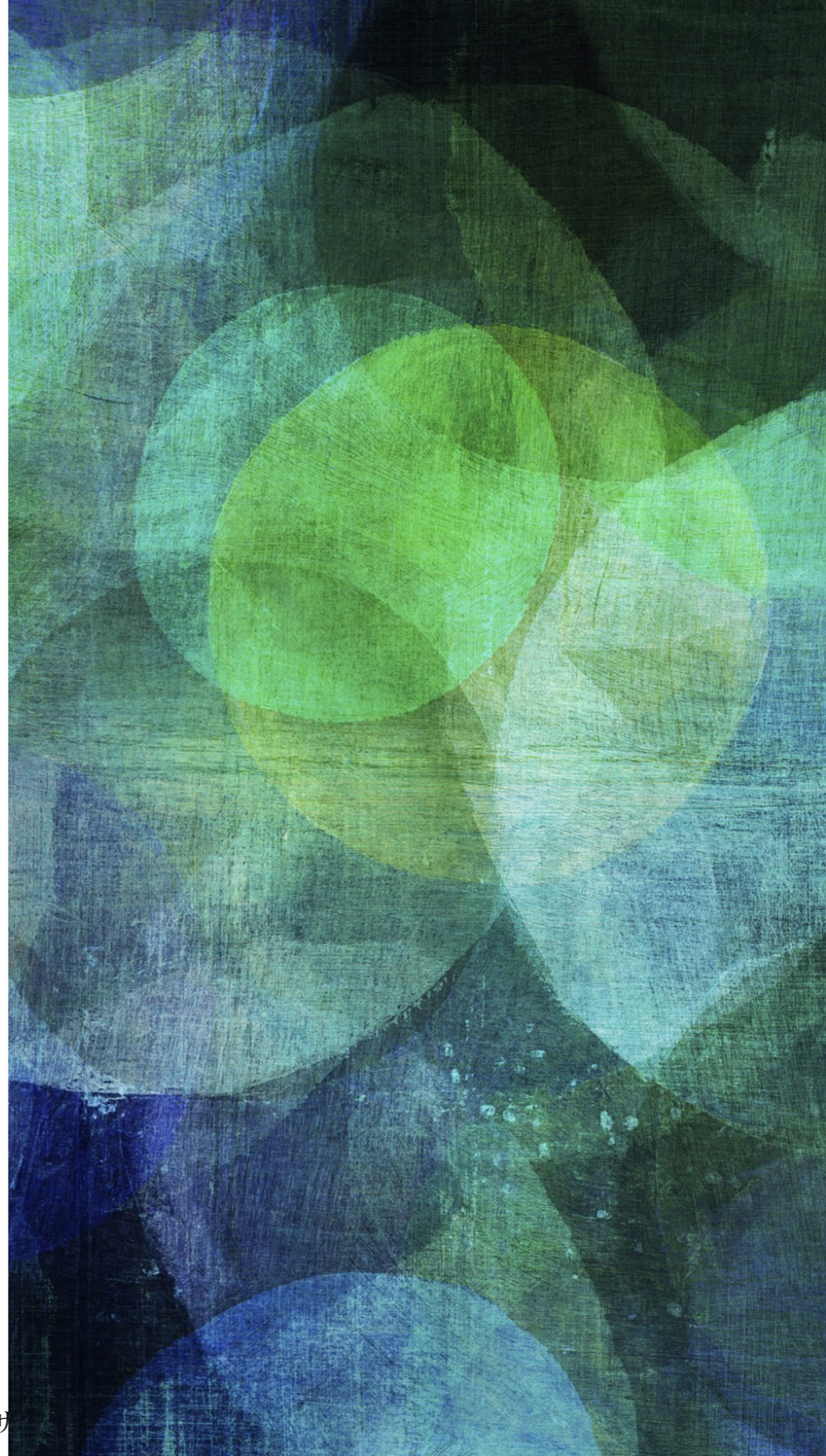
言葉選び

書き直し、日々の磨き

論理



正確な 言葉選び および表記



言葉選び

例：富士山の高さは3,776mである。

高さ → 標高（／海拔）

日常語		専門用語	
和語 (訓読みする語)	漢語 (音読みする語)	外来語 (カタカナ語)	
速さ	速度	スピード	

- 対策：①大学教科書、
②専門辞書・事典、
③先行研究、指導教官の著書などを参照。

日常語	専門用語	専門分野
集まり	集合	数学
空気の汚れ	大気汚染	環境学
がん	悪性腫瘍	医学
虫歯	齲齒	歯学
会社	企業	経営学

言葉選び一語の定義

専門用語の最大の特徴＝

定義が明確、意味が限定

書き手と読み手とで理解が一致

新しい専門用語の創出

電車

線路を走る、電力を動力とする乗り物で、移動の手段として使われる公共交通機関である。

列車

線路を走る、長い編成からなる乗り物で、機関車に牽かれている車両を指すことが多い。

正確な表記—漢字と仮名

- ①時間を置いてから読み返す
- ②他人に読んでもらう
- ③自分の思考やパソコンの変換機能の癖を知る

• 日本語の受け身には大きく分けて「直接受身」と「関節受身」がある。

間接

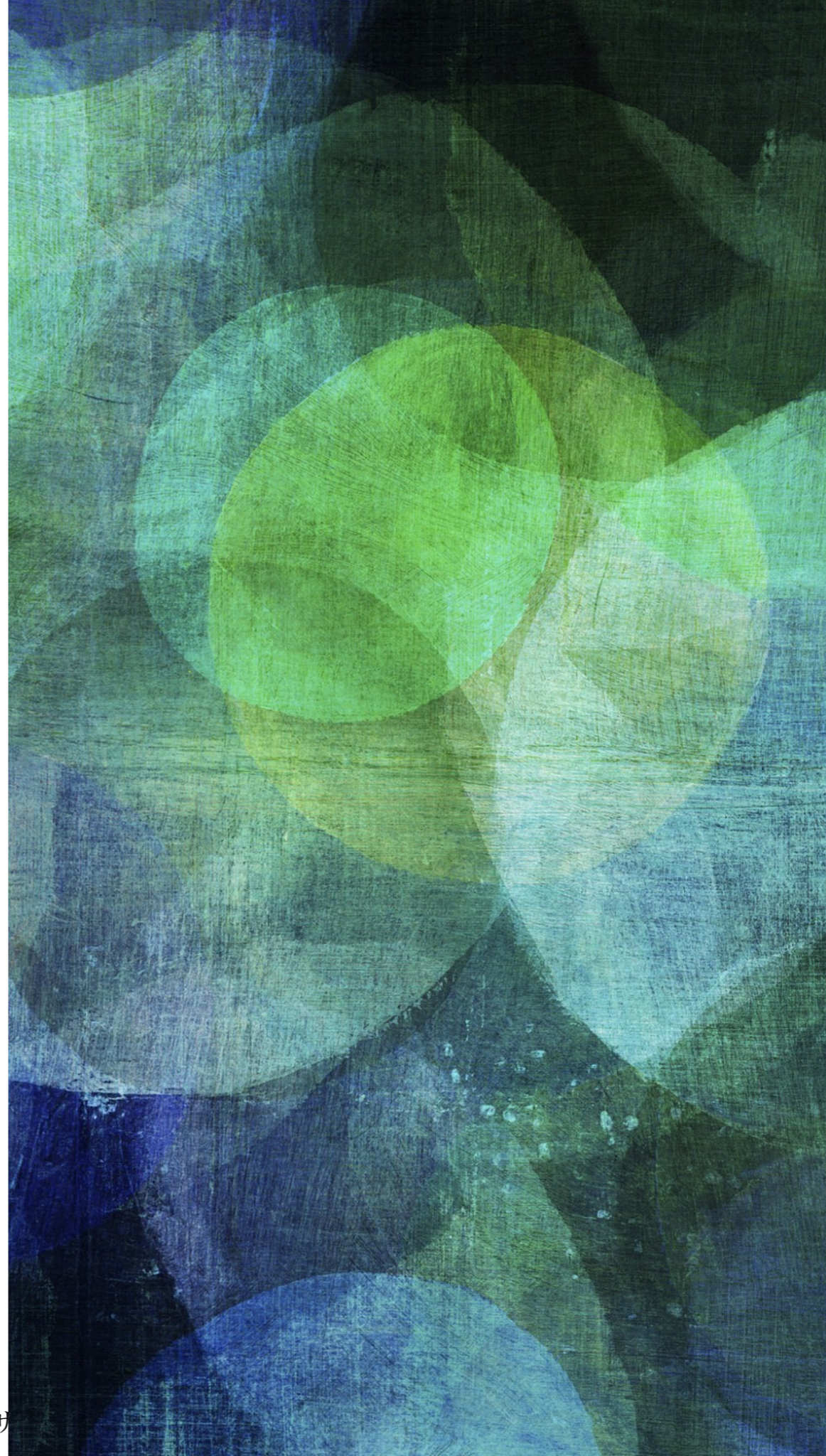
• 異和感を覚える

違和感

• 壁の高い市に固定式のシャワーがある

位置

論文専用 の表現



専用表現—動詞

論文の構成	主な動詞
①目的（スル形）	述べる、論じる、扱う、議論する、報告する、紹介する、明らかにする、示す、主張する、提案する
②引用（シテイル形）	①→している、指摘する、言及する、触れる、引用する、紹介する、挙げる、参照する
③調査（シタ形）	調べた、調査した、分析した、検討した、実験した、測定した、観察した、記録した、収集した、使用した
④結果（シタ形）	わかる、明らかになる、見られる、現れる
⑤考察（スル形）	思われる、考えられる、見られる、言える
⑥結論（シタ形）	①「目的」→シタ形

専用表現—文末表現

文末表現の例	表現の問題性
雨が降るらしい／みたいだ	外部情報に基づく推測
雨が降るようだ／ふりそうだ	↓ 書き手の責任逃れ
雨が降るだろう／かもしれない	漠然とした推量 →書き手の憶測
雨が降るはずだ／に違いない	強い確信 →書き手の思い込み
雨が降るそうだ／という	他社からの伝聞 →情報の匿名性

専用表現一オトナ語

文末表現の例

管見の限り

紙幅の関係で

今後の課題／別稿に期したい

明らかである／自明である／言うまでもない

二重否定（○○ないわけではない）

本稿／本研究／この論文／この研究

文体一書き言葉

サイト名	話し言葉→書き言葉	話し言葉→書き言葉
接続助詞	から→ので	したら→すれば
	して→し	のに→にもかかわらず
	しないで→せずに	けど→が
副詞	全然→まったく	一番→もっとも
	多分→おそらく	ちっとも→少しも
	絶対→からなず	もっと→さらに
接続詞	だから→そのため	けど→だが
	それから→また	だって→なぜなら
	でも→しかし	じゃあ→では

主観的な語と客観的な語

おおざっぱな判断

v s

慎重な判断

書き言葉一名詞

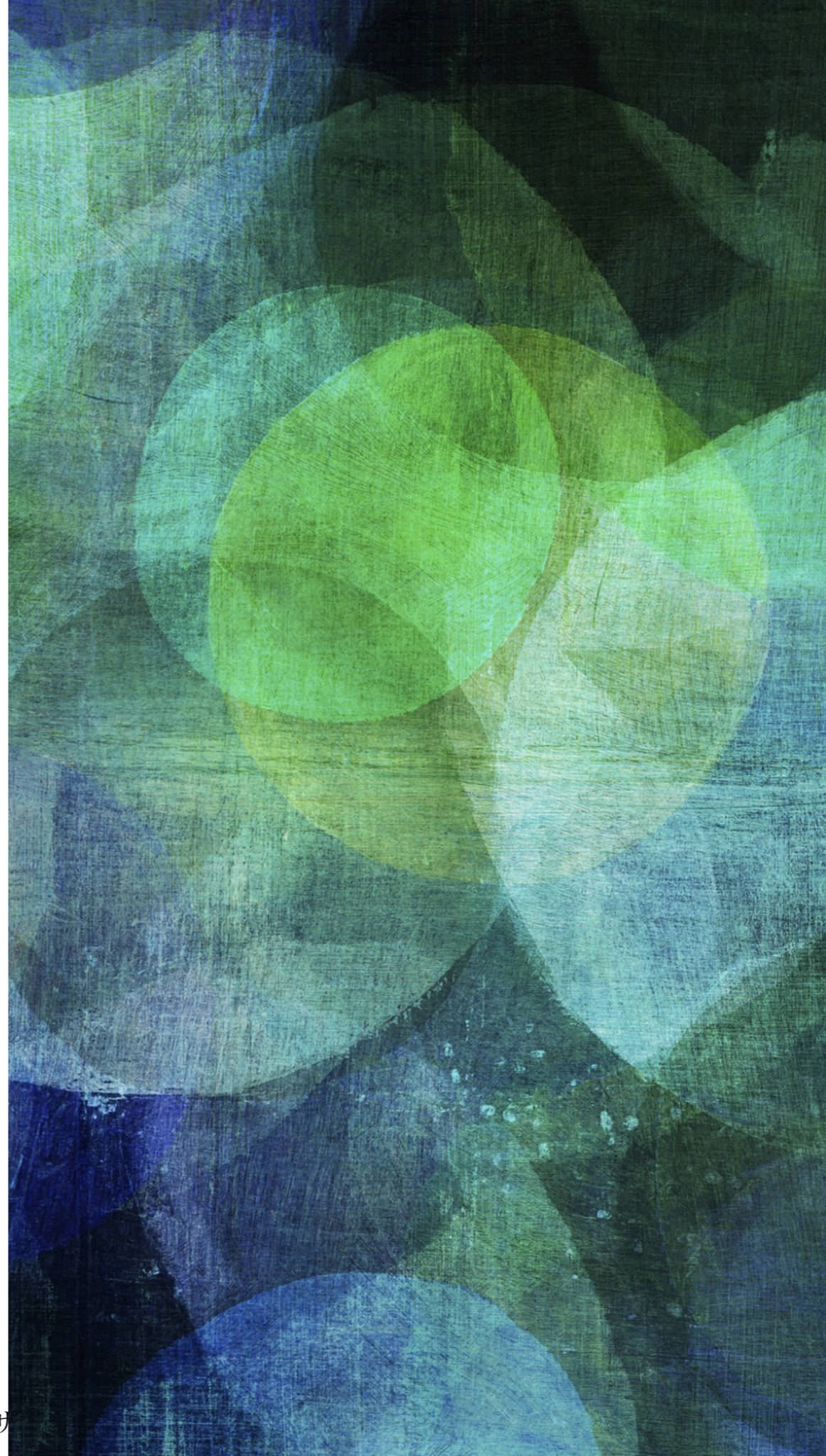
簡潔で厳密な表現

輸出が拡大したことで、製造業が再び多くのものを作れるようになった。

→輸出の拡大によって、製造業の生産が回復した

／→輸出の拡大が、製造業の生産の回復に寄与した

明晰な文 を書く



複数の意味—「だれよりもキミがすきだ！」

例：バラは一般に病害虫に弱い。ところが、最近、アポトキシシンという現在主流となっている農薬を一切使わずに育てられる新種のバラが開発された。

参考文献：前掲、石黒圭、147頁。

アポトキシシンというのは、農薬なのか、バラなのか？

→ところが、最近、現在主流となっているアポトキシシンという農薬を一切...

→使わずに育てられるアポトキシシンという新種のバラが開発された。

<修飾・被修飾の関係>

複数の意味—派遣社員の待遇は？

例：契約社員にくらべて給与や待遇が低い派遣社員は、派遣先の企業で仕事の内容に対して不満を持つケースが多い。

参考文献：前掲、石黒圭、144頁。

給与や待遇が低いのは派遣社員全体なのか一部なのか？

→派遣社員にも、契約社員にくらべて給与や待遇が低いものとあまり変わらないものがある。前者の場合、...

→派遣社員は、契約社員にくらべて給与や待遇が低いので、...

＜制限用法・非制限用法＞

複数の意味—現政権とマスコミ

例：現政権のマスコミ批判が新聞紙上をにぎわせている

参考文献：前掲、石黒圭、149頁。

だれがだれを批判しているのか？

現政権によるマスコミ批判が...

現政権に対するマスコミ批判が...

<名詞の意味と相対性>

複数の意味—授業スタイルがなぜに

例：中国の大学はアメリカの大学のように少人数で活発に議論する授業はほとんどない。

要するに、アメリカの大学では議論が盛ん？逆？

アメリカの大学とは違って／対照的に／異なり、...

アメリカの大学と同じように／同様に、...

参考文献：前掲、石黒圭、150頁。

<否定表現>

読者が迷子に一結婚相手はだれ？

例：NHK「サンデースポーツ」を担当している與芝由三栄アナウンサー（34）が結婚したことが25日、わかった。相手は楽天・野村克也監督（73）の息子である団野村氏（51）が代表を務めるマネジメント会社「KDNスポーツジャパン」に勤務する内田康貴氏（26）。

参考文献：前掲、石黒圭、156頁。

誤解を与えながら修正していく手法＝小説≠論文

< 修辞先の遠近の調整 >

読者が迷子に一あの文、いつ終わる？

参考文献：前掲、石黒圭、155-156頁。

例：本稿は、今年度前期、半年にわたりおこなわれた、筒井先生をリーダーとする、日本人学生と留学生の接触場面における会話分析プロジェクトをつうじて収集した資料の整理と分析をおこない、報告書としてとりまとめた一部を、本誌の投稿規定に合わせて加筆・修正したものです。

→：今年度前期、半年にわたり、日本人学生と留学生の接触場面における会話分析プロジェクトが筒井先生をリーダーとしておこなわれました。そのプロジェクトを通じて収集した資料の整理と分析をおこない、報告書としてとりまとめました。本稿は、その報告書の一部を、本誌の投稿規定に合わせて加筆・修正したものです。

<前提情報を冒頭に>

読者が迷子に一構造に留意

参考文献：前掲、石黒圭、155頁。

例：最小規模が5000ドル、最大規模が100万ドルという会社の規模に関する制約が1882年のマサチューセッツ州の会社制定法の規定にあった。

→：1882年のマサチューセッツ州の会社制定法の規定には会社の規模に関する制約があり、最小規模が5000ドル、最大規模が100万ドルであった。

<予測しやすくする>

読者が迷子に— 「は」と「が」の使い分け

参考文献：前掲、石黒圭、158頁。

例：2日の東西新聞社の記事によれば、もみじフィナンシャル・グループが経営不振に陥っているネット証券大手楠証券への大規模な出資や買収を検討しているという。

→：2日の東西新聞社の記事によれば、もみじフィナンシャル・グループは経営不振に陥っているネット証券大手楠証券への大規模な出資や買収を検討しているという。

＜読者の負担軽減＞

読者が迷子に一曖昧さは不要

参考文献：前掲、石黒圭、161, 164頁。

例：日本に住んでいる外国人は多い。

→：事実、法務省の統計によれば、外国人登録者数は2010年末現在で213万人である。

例：日本語の人称代名詞の最大の特徴は、ほかの言語に比べて圧倒的にその数が多いということである。

→：日本語の人称代名詞の大きな特徴は、英語やドイツ語にくらべ、「私」「僕」「あたし」「わし」「自分」「うち」「我が輩」「小生」「拙者」のように、その種類が多いということである。

<明確さ、正確さ>

読者が迷子に一曖昧さは不要

参考文献：前掲、石黒圭、162頁。

例：ハイブリット車の登場をきっかけに、自動車を購入する際のユーザーの選択の基準が大きく変わった。

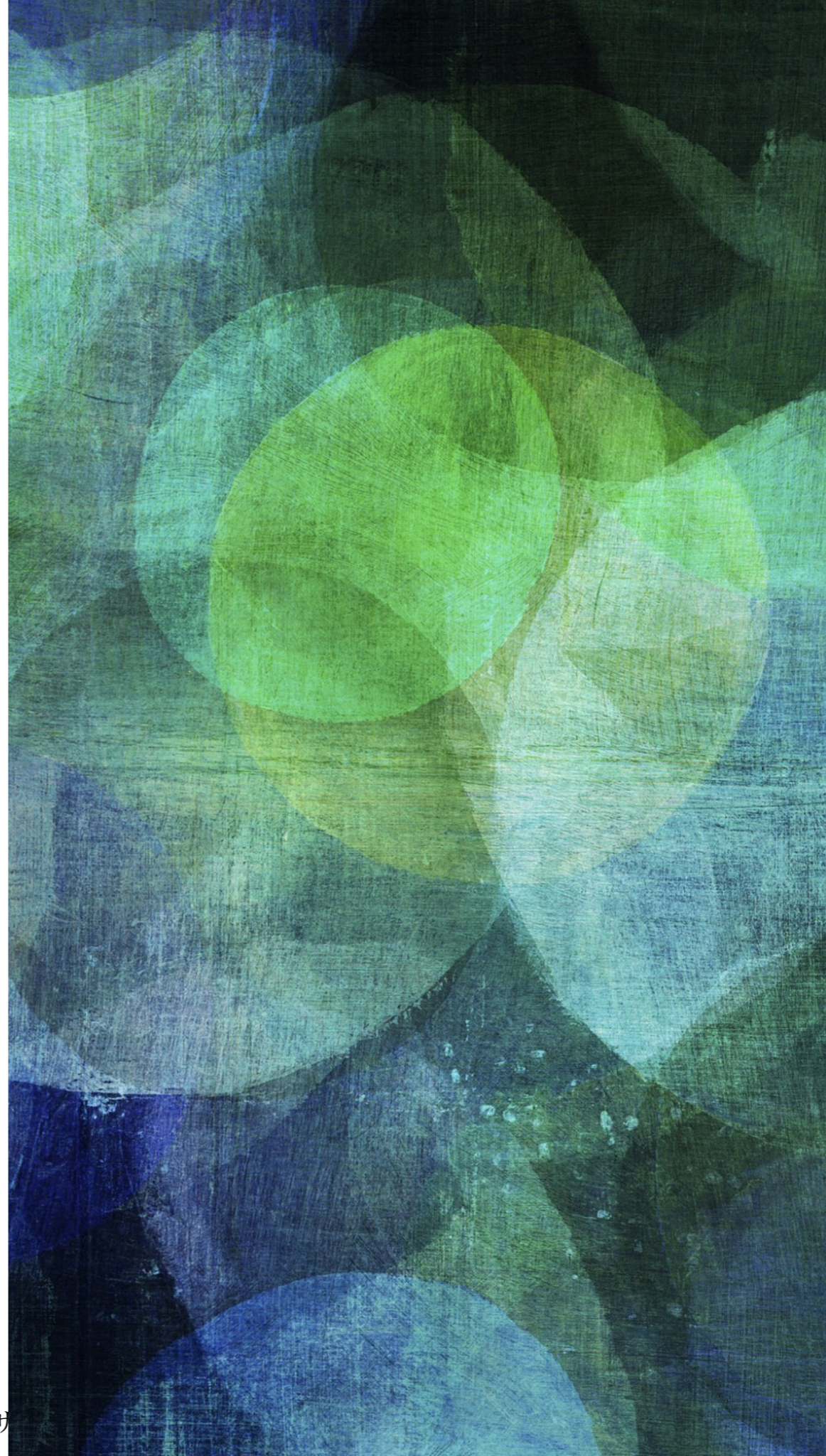
→：パワーからエコーと大きく変わった

例：「自分」は通常一人称であるが、一部の地域では二人称として使われることがある。

→：一部の地域＝大阪・神戸とその近郊

＜含みは残さずに断定する＞

明晰な 文章展開



指示詞—「そ」と「こ」

現場指示<注目>

例：「これください。」 「これはなんですか。」

文脈指示<特定>

例：「こうした方法について...」、「その考え方は...」

「そ」を使う場合：

先行文脈の内容をそのまま持ち込む時

例：「国家には自国のことを他国の意向に左右されずに決める権利がある。それが主権である。」

「こ」を使う4つの場合↓

指示詞一 「こ」 を使う場合：

「ここで考えたいのは、…」 <現場指示的>

「家族愛こそがすべての愛の基礎にある。この信念を具現化するために、この作品は書かれたと言って過言ではない。」 <テーマ、強調>

「このような考察を重ねることで初めて、世界の市場で軽自動車が急速に受け入れられた心理のゆうが見えてくるのである。」 <まとめる>

「そういう見方に対し、鈴木はこう指摘している。…」 <後続文脈を指示>

練習

参考文献：前掲、石黒圭、167頁。

定年制度は、労働者がある一定の年齢に達したら、自動的に解雇することを認める制度である。① {A.〇／B.これが／C.定年制度が} 日本で根づいた背景には、終身雇用の慣行があった。定年があっても、② {〇／それに／その年齢に} 達するまでは安定して勤めつづけられるという安心感があったため、労働者はその後の生活設計を視野に入れた働き方ができたのである。

しかし、現在、③ {〇／それが／終身雇用の慣行が} 崩壊しつつある。バブル崩壊後の日本経済の悪化に伴い、リストラの名のもとで、企業が中途解雇や早期退職などをおこなうことが日常化したからである。④ {〇／そこでは／日常化した状況では} 定年制度は年齢による強制解雇を認める制度としてのみ機能するようになる。

⑤ {〇／そこで／そうした状況のなかで} 定年制度の見なおしを迫られた政府は、2006年、高年齢者雇用安定法を改正し、65歳までの雇用を促すよう企業に義務づけた。多くの企業は65歳までの定年延長や再雇用で ⑥ {〇／それに／義務づけに} 対応したが、年金の財源も先細るなか、定年を控えた中高年労働者は⑦ {〇／それに／その生活に} 漠然とした不安を抱えている。

接続詞

5 大接続詞

順位	接続詞	出現頻度
1	しかし	700
2	また	488
3	そして	305
4	さらに	233
5	たとえば	204
6	つまり	195
7	すなわち	194
8	したがって	189
9	まず	155
10	そこで	113

(出典：石黒 2012:175)

①逆接： しかし

②並列：

また、そして、さらに
／一方、他方

③例示： たとえば、

④言い換え：

つまり、すなわち

⑤まとめ：

したがって、このように、
こうして、ゆえに

接続詞

5 大接続詞

順位	接続詞	出現頻度
1	しかし	700
2	また	488
3	そして	305
4	さらに	233
5	たとえば	204
6	つまり	195
7	すなわち	194
8	したがって	189
9	まず	155
10	そこで	113

(出典：石黒 2012:175)

しかし+そこで
有力の解決策

しかし+ (それ) では
本題に入り、
核心となる問いへ

⑤まとめ：

したがって、このように、
こうして、ゆえに

接続詞

文末の接続詞

「...のである。」

先行文脈の言い換えやまとめを示す

<段落の要約>

「...からである。」

理由を示す（文頭に「なぜなら」、強調）

「...ことになる。」

結果や帰結

<論理に基づく>

研究の目的は、私たちが抱えているさまざまな問題の本質を明らかにし、その解決方法を提示することである。**しかし**、研究がいくら進んでも、私たちが日々の生活で直面する問題がすべて解決されるわけではない。それはなぜなのだろうか。

もちろん、問題の本質が複雑で解決の糸口が見いだせないという研究自体に内在する限界もある。**だが**、ある解決方法が見つかったとしても、それが実践されなければ現実世界の問題は解決されない。当事者が実行に移す意思がなければ、あるいは予算などの諸条件が整わなければ、問題はけっしてなくならないのである。

また、実行に移す過程で新たな問題が出現し、解決が阻まれることも少なくない。**その結果**、新たな研究が必要になる状況が生じることもある。

現実世界が抱えている問題が研究を必要とし、研究はその成果が現実社会で実践されることで初めて問題の解決が可能になる。**そのため**、研究と、現実社会での実践は対立するものではなく、いわば車の両輪 のような表裏一体のものとしてとらえる必要がある。

予告と整理

参考文献：前掲、石黒圭、183頁。

これから述べる内容をあらかじめ整理しておく

=先行オーガナイザー (advanced organizer)

私たちは、書いている文章に出てくる語について、すべて漢字に直しているわけではない。常用漢字表に載っているものであっても、取捨選択して必要なものだけを漢字にしているのである。では、私たちが、ある語を漢字にし、ある語を平仮名にするときの書き分けの基準は何だろうか。

第一の基準は、語種である。

予告文

〔中略〕

書き分けの第二の基準は、機能である。

序列表現

〔中略〕

漢字と平仮名を書き分ける第三の基準は、慣用である。

〔後略〕

予告と整理ー4つの文型

①説明予告型

「ここでは、漢字と平仮名の書き分けの基準について説明する。」

②問題提起型

「漢字と平仮名の書き分けにはどのような基準があるだろうか。」

③存在宣言型

「漢字と平仮名の書き分けの基準は三つある。」

④位置予告型

「漢字と平仮名の書き分けの基準は、次のとおりである。」

予告と整理ー4つの文型

①説明予告型

「ここでは、漢字と平仮名の書き分けの基準について
説明する／示したい／述べよう。」

「あらかじめ確認しておきたいのは、…」

「…については、次節で取り上げることにする。」

「…について、順次、考察していく。」

予告と整理ー4つの文型

②問題提起型

重要な問題に限って疑問文を使おう

③存在宣言型

「漢字と平仮名の書き分けの基準は三つ

ある（と考えられる）／挙げられる／に分けられる

第一に、／①／...」

<構造的に理解>

ただし、一貫性に要注意

予告と整理ー4つの文型

④位置予告型

「漢字と平仮名の書き分けの基準は、つぎのとおりである／場合がある／ようになる／ことが言える。」

つぎ → 以下／以降／次節／3節／...

つぎ + に述べる。／次節で説明する
の三つである。

2点にまとめられる。

予告と整理ー4つの文型

- ①説明予告型（ここでは、〇〇について説明する。）
- ②問題提起型（〇〇にはどのようなものがあるだろうか。）
- ③存在宣言型（〇〇には三つある。）
- ④位置予告型（〇〇は、次のとおりである。）

→ 論文で問題にしたい話題を二字漢語で表す

参考文献：前掲、石黒圭、186頁。

二字漢語	名詞の例
「理由」系	理由、原因、根拠、基準
「意見」系	意見、主張、批判、指摘
「問題」系	問題、課題、疑問、仮説
「方法」系	方法、対策、手段、戦略
「特徴」系	特徴、特色、性格、側面
「要点」系	要点、論点、概要、概略

書き手の責任—主張する

論文は意見文であり、欠かせないのが主張（≠説明文）

主張を支える根拠となる事実を集めてくる

（主張を肯定＋否定する根拠に両方着眼）

例を挙げること≠根拠を示す

（多様な角度から多数挙げる＋例外に気を配る）

比喩は感性やイメージに訴えるもので、原則禁物。

（論理を追求）

書き手の責任ー引用する

自己と他者の区別 <オリジナリティー>

引用：誰かが既に話したり書いたりした言葉を、二次的に利用であることを明示しつつ、形態・内容ともできるかぎり忠実に再現したもの。（石黒 2012:196）

目的	引用の4つの	オリジナリティーを高める	引用のルール	出典を明示
		自説の根拠にする		「〇〇(2001a)によれば、...」
		自説の応援団にする		引用の範囲を明確に
		自説の仮想敵にする		「「〇〇」と述べている」

孫引きを避けよう

参考文献

- ▶ 石黒圭、『論文・レポートの基本』、日本実業出版社、2012/03。
- ▶ 『大学生の文章術 レポート・論文の書き方』、旺文社、2015年。
- ▶ 近江幸治『学術論文の作法―〔付〕小論文・答案の書き方』、成文堂、2011年。

ご清聴どうも

ありがとうございました。

